

## これまでの議論の振り返り

### 1 施設のコンセプト

「共創による未来に誇れる場づくりとしてのエコプラザ」

### 2 ベースとなる考え方

#### ①リスペクト

新旧クリーンセンター建設の歴史をはじめ、様々な環境の歴史や議論、成果や思いを共有し、記憶に残す。

#### ②市民参加

市民自治を実践してきた本市ならではの施設として、創発的な市民のエネルギーを集約し、市民とともに施設を育てていく。

#### ③メタボリズム（＝進化していく、成長し続ける、完成しない）

時代や環境、市民ニーズの変化などに対応しながら、施設も人も創造的にフレキシブルに学び合い、育ち続ける。

#### ④生活との接点

日常生活と多様な環境問題との接点やつながり、関係性などに気づかせ、共感、行動変容を促す。

### 3 目指すもの

#### ①ごみゼロ、ゼロウェイスト

ごみゼロ社会という遠い理想・空想的な目標に向かうには、その時々々の社会状況を見ながら、実現可能な目標を設定し、一人一人が環境問題と向き合う意識を持つよう促していく。

#### ②コレクティブインパクトの成功例として SDGs に取り組む

環境問題は解決が難しく、企業・行政・NPO の 3 者が協力し、それぞれの強みを生かして成果を出していく。

※SDGs（持続可能な開発目標）17 項目

①貧困、②飢餓、③保健、④教育、⑤ジェンダー、⑥水・衛生、⑦エネルギー、⑧経済成長と雇用、⑨インフラ・産業化・イノベーション、⑩不平等、⑪持続可能な都市、⑫持続可能な生産と消費、⑬気候変動、⑭海洋資源、⑮陸上資源、⑯平和、⑰実施手段

※SDGs17 項目のうち、日本の環境課題に関係の深い目標例

クリーンエネルギー、循環型社会、温暖化対策、生物多様性の保全など

### 4 4つの基本方針

#### ①低炭素モデルの実現

地球温暖化を背景に、多様な環境啓発の拠点として、低炭素社会に向けた市民の環境にやさしい行動を促進し、市域全体へと広めていく。

#### ②地域力の向上

環境を軸に地域を結ぶ核となり、地域の活性化や地域力の向上に資する施設として、環境に根ざした地域づくりを発信し、まち全体を拠点化していく。

#### ③まちづくりとの連携

敷地内の新施設や周辺施設との連携により、緑化や景観形成、バリアフリー化を徹底するなど、創造的なよりよいまちづくりに貢献する。

#### ④メタボリズム（＝進化を続ける）

施設の価値や目標、テーマなどは市民とともに作り、共有していくが、常に完成形とせず、刻々と変化する環境問題や環境に対する市民ニーズ、価値観などに対応しながら進化し続けていく。

### 5 機能について（周辺協の「創造」は、2③・4③などへ）

#### ①取り扱う環境テーマ

・多様な環境：ごみ、資源、地球温暖化、エネルギー、水循環、緑、生物多様性など

\*これまでに挙げられた主な内容（環境テーマ別＋全般）

**ごみ・資源**：ごみ戦争・クリーンセンター建設の歴史の継承、ごみの減量啓発、ライフスタイルを変える、ごみの分別方法の周知、生ごみのたい肥化、コンポストガーデン、リサイクルガーデン、創造、クリエイティブリユース・アップサイクル、リペア・リユース工房、ごみ素材化ワークショップ、素材ライブラリ、おもちゃ・絵本のかえっこ、おもちゃ病院、食品ロス、空き家の活用、着物リサイクルのブランド化、マイクロプラスチックの影響（海・魚）、プラスチック処理の現状、クリーンセンター宿泊体験・煙突のぼりイベント

**地球温暖化**：低炭素化、再生可能エネルギーの研究、太陽光発電等設備の解説、ゴーヤの苗の無料配布（エネルギー）布、市民ファンドによるソーラーシェアリング、ベランダ発電工作教室、ソーラー設置住宅見学会、防災・商店街等との協働イベント＋インセンティブ、市民のできること・自治体単位・多摩地区でできることなどの問題提起、環境家計簿と地図のリンク

**水の学校**：多様な視点から水との関わりを学ぶ、座学だけでなく楽しさ、国土交通大臣賞（効果的な広報（水循環）活動、環境教育の取り組み評価、モチベーション上昇の価値）、サポーター（修了生）活動（企画講座、自主企画＝大人の遠足、大人の部活、ニュースレター執筆、水教育プログラム資格取得、組織化の是非）、修了者バッジ、下水の見える化、雨水ます・タンクの設置促進、雨水タンクの緑化活用・宣伝、微生物による水の処理と油の関係、井の頭池の湧水復活と地下水、洪水対策、市民科学

**まちづくりとの関わり**：道路・景観への関心から緑のまちづくりレポーターへ、広報活動、情報誌作成・スポンサー探し、大学・起業塾での勉強、まちの色とクレオンの取り組み、リーフレット「辻」、スポンサーとの関わり方、企業のメリット、自主活動の発表の場、子育て支援施設との連携講座、花とカーボンフットプリント、中学校の花壇の整備・雨水タンクの活用・活動発表、市との連携、防災視点

**緑**：公園、たい肥を使用した屋上菜園、種からの育苗・挿し木・株分け、ドライフラワー化、押し花、緑のカーテン、屋上・壁面緑化、農業公園とのコラボ、武蔵野の雑木林、自然観察園・二俣尾・奥多摩等をフィールドとした自然体験事業、枯れた花の再生、桜マップ・桜の樹名板、落ち葉とリス、間伐材の活用

**生物多様性**：自然の仕組みと生態系、ビオトープ、花壇周辺の生物調査・発表、生態系の管理、気象と生息環境のつながり、かいぼり見学、公園の生態系、ペット(外来種)の野生化、外来種被害、まち全体が植物園（多様な種類の桜や、希少な植物の生息が武蔵野市に根付いている）、武蔵野市の在来種生息地の確保・観察

**全般的事項**：気づきの場の重要性、化学反応・化学変化、中間支援、開かれた場、エコ、市民参加・市民提案、変化球の必要性、可変的利用、優先順位、コーディネート、地域のつなぎ役、知り合いになる、多面的な視点、ワクワクする場所、啓発の質、暮らしやすさと環境問題の関係を知る、オリジナリティ、食・農業との関わり、商業・産業振興・雇用等との関わり

## ②対象

全市民

- ・環境に関心のない方への働きかけや、来館できない方でも参加できる仕組み

## ③手法

具体的に何をやる施設なのか。

- ・市民参加型の環境啓発施設として、利用者側の視点を大切にしながら機能を検討する
- ・人と人、人と環境、人と社会の関係を有機的に紡ぐ「場のデザイン」を考える

\*これまでに挙げられた主な内容（手法別）

**情報収集・伝達**：見える化、データ化、総合化、体系化、広報ルートづくり、分かりやすさ、正しさ、質の高さ  
**学び**：ESD、負のイメージ・危機感、環境問題を引き起こしているのは人間という意識、未来と歴史、文化、リアリティ、実体験、楽しさ・遊び・おもしろさと継続性、おしゃれさ、プロセスの学習、体感・思考・蓄積のコンテンツ、Sense of wonder（なぜ？が次のステップへ）、多様性、共感力、気づきから深い学びへ、感じる力・観察する力を考える力に、読み取る力、複雑系の学び、入口から出口までのジャーニーを考える、本質的なことを学ぶ、哲学、探究創出型、学び直し、未来の消費者へのアピール  
**交流**：人と人をつなぐ、コミュニケーションの循環、いつでも誰でも、人事交流、コミュニティ、学び合い・育ち合い、世話をやく人、世代交流、外国人の方、地域のスペシャリスト、リタイヤしたOB・OGの方

\*手法の区分例

手法		例
情報収集・伝達		掲示板、Web・SNS、事業説明会・報告会、イベント出展、情報交換会、広報紙など
学び	展示	常設・企画・参加型展示、環境配慮技術・設備の解説、来館者等制作物の展示、補修等実演、映像・音楽の視聴など
	参加、体験	セミナー、フォーラム・シンポジウム、イベント、お祭り、講座、ワークショップ+プレスト、フィールドワーク、出前授業、講師派遣など
	探究、行動、活動	環境ライブラリ、レファレンスサービス、教材等貸出、PC検索、相談支援、モヤモヤ会議（カフェ）、学習会、研究・提案プロジェクト、ボランティア・環境リーダー・講師等の養成・活動サポート、団体・事業者等支援、来館インセンティブ、素材収集・提供、活動発表会、環境に関する市民の活動の場づくり（会議室、ワークルーム、キッズスペース、子どもの遊び場）、アーカイブなど
交流	連携	グリーンセンター・周辺施設等との連携、地域資源の発掘・活用、学生等とのコラボ、地域のネットワーク化、学校教育等との連携、コンソーシアム、他自治体施設等との広域連携、各種マッチング、コーディネート機能など

#### ④今後の機能検討の視点

- ・それぞれの環境テーマをつなぐ視点で考える機能
- ・それぞれの環境テーマや環境テーマのつながりと、手法とを組み合わせで考える機能
- ・空間活用と一体的に考える機能

## 6 運営について

### ①運営形態

運 営	直 営	委 託		
	市 職 員	NPO	外郭団体	企業・事業者
特 徴	<ul style="list-style-type: none"><li>・市の方針をダイレクトに反映できる</li><li>・施設運営のノウハウ・ネットワークに専門性がない</li><li>・人事異動や退職などによりスキルが蓄積されづらい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・開館時間の延長など民間ノウハウを生かしたサービスの向上が図れる</li><li>・ネットワークや人脈を生かした連携や多様な事業展開が可能となる</li><li>・事業者任せになりがち</li></ul>		
建物管理	市 職 員	職員または指定管理者		

\*これまでに挙げられた主な内容

委託の際の課題 : NPO : 世代交代が難しい、高齢化・固定化、資金不足

外郭団体 : 環境を専門とした外郭団体がない

企業・事業者 : 市民参加・連携の経験や実績が少ない

マネジメント : 人材不足、人材育成の必要性、マッチング・コーディネート・ファシリテート、ボランティア（ガイド・インタープリター）お金を集める仕組み（補助制度のマッチング、ネーミングライツ、協賛金・募金、企業・事業者とNPOとの連携、ふるさと納税の使いみちなど）、アーカイブ・活動のナレッジのストック、評価・検証手法、効果、指標・チェック体制の確立、危機管理・防災対策、事例のないような運営母体、公共の壁にしない